

国際物流戦略チーム幹事会について

京都大学 名誉教授
小林 潔司

- 昨年度の本部会合において、今年度「今後の取組」を変更することが決定されたことを踏まえ、第33・34回幹事会を開催し、「今後の取組」の変更に向けてWithコロナ時代の国際物流の在り方等について議論した。
- 幹事会における議論を踏まえ、**強靱で持続可能な国際物流ネットワークの構築**に向けて、国際物流戦略チームの**当面の重点課題**を明確にした。

■ 検討体制

事務局（関西経済連合会、国土交通省近畿地方整備局、近畿運輸局、大阪航空局）において素案を作成。
(必要に応じ構成員等に個別にヒアリングなどを実施。)

■ 変更スケジュール

- ・ 2021年11月1日の第33回幹事会において変更の骨子の提示
- ・ 2022年2月25日の第34回幹事会での変更案の議論
- ・ 2022年3月23日の第18回本部会合にて変更案の確定

■ 主な変更内容

(**当面の重点課題：強靱で持続可能な国際物流ネットワークの構築**)

- ① Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築
- ② 崩れないグローバルコールドチェーンの構築
- ③ 大阪・関西万博に向けた取組の推進
- ④ 国際物流の脱炭素化(カーボンニュートラル)の推進

■ 第33回幹事会（2021年11月1日）の状況



幹事会での主なご意見と「今後の取組」への反映方針

○ 強靱で持続可能な国際物流ネットワークの構築に向けて、以下の4点を国際物流戦略チームの当面の重点課題とする「今後の取組」の変更（案）を取りまとめた。

- ① Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築
- ② 崩れないグローバルコールドチェーンの構築
- ③ 大阪・関西万博に向けた取組の推進
- ④ 国際物流の脱炭素化(カーボンニュートラル)の推進

● 幹事会での主なご意見

➤ 当面の重点課題①関連

新型コロナウイルス感染症の拡大によってグローバル・サプライチェーンが大きく変わっており、このような環境変化に対応する必要がある。阪神港の国際競争力の強化、国際基幹航路の維持・拡大に向けた大型船舶への対応、港湾物流手続のデジタル化を進めていくべき。

➤ 当面の重点課題②・④関連

食品の輸出を後押しするためのリーファー混載などに対応したコールドチェーンに係る物流基盤の整備、国際物流のカーボンニュートラル（脱炭素）の2点を重点的に進める必要がある。

➤ 当面の重点課題①・③関連

コンテナターミナルゲート前渋滞の解消につながるCONPASを導入する必要がある。大阪港にもCONPASを早期に導入し、大阪・関西万博の工事中から開催まで、夢洲地区内の渋滞解消に取り組む必要がある。

➤ 当面の重点課題③関連

大阪・関西万博に関して、物流と万博交通の両立に向けて、関係者間で協力体制を構築し、連携して取り組んでいく必要がある。